

コニカミノルタ-東京大学医科学研究所 共同研究ユニット 研究成果報告会ミニシンポジウム

肺癌、乳癌の分子システム並びにゲノム解析からの診断治療戦略

2011 年 8 月 31 日(水) 16:50~20:00

東京大学医科学研究所 2 号館大講義室(港区白金台 4-6-1)

概要は次ページ

参加無料、事前登録不要

はじめに 16:50~17:00 宮野 悟

17:00~17:30 「スパコンが焙り出すシステムとしてのがんの薬剤応答性、個性、
多様性」

宮野 悟 教授

東京大学医科学研究所・ヒトゲノム解析センター・DNA 情報解析分野

17:30~18:00 「分子システム生命医科学から学ぶ肺癌、乳癌の分子機構と
バイオマーカー、分子標的」

後藤 典子 特任准教授

東京大学医科学研究所・システム生命医科学技術開発共同研究ユニット

18:00~18:30 「表面プラズモン励起蛍光分光による高感度タンパク質検出」

須田 美彦 室長

コニカミノルタテクノロジーセンター・光学バイオ技術開発室

18:30~19:00 「ゲノム異常と発現プロファイルを組み合わせた肺腺がんの分子分類」

横田 淳 分野長

国立がんセンター研究所・多段階発がん研究分野

19:00~19:30 「遺伝子異変解析に基づく肺がん治療標的分子の探求」

河野 隆志 分野長

国立がんセンター研究所・ゲノム生物学研究分野

19:30~20:00 「BRCA2-plectin 複合体による中心体の局在制御に関する研究」

丹羽 隆善 医員、小川 利久 准教授

東京大学大学院・代謝内分泌外科

おわりに 後藤 典子

司会進行 宮野 悟、後藤 典子

主催:東京大学医科学研究所

問い合わせ先:後藤典子 E-mail:ngotoh@ims.u-tokyo.ac.jp TEL:03-5449-5629

概要

21世紀の癌の医療として注目されている個別化医療を実現するためには、患者一人一人の病態の正確な把握、それに合わせた治療法の開発が必須です。そのためには、しっかりした分子生物学の下支えのもと、細胞内の遺伝子発現や、ゲノム情報を網羅的に解析することが必要です。

私どもは網羅的解析のために、新規バイオインフォマティクス技術を積極的に取り入れることが重要と考え、取り組んでまいりました。

国内外でも、システム生物学が新規分野として注目されてから約10年ほど経ち、現在医学研究における成果が注目されています。本ミニシンポジウムでは、2007年に立ち上がった本共同研究ユニットの中で得られた成果についてお話し、さらに共同研究にご協力いただきました先生方の最新の成果についてご講演いただき、今後の癌研究の展望を議論できればと思っております。

ぜひご興味のある方々にいらしていただき、活発な議論が展開できれば幸いです。研究者の方々始め、学生、院生、所内外の様々な方々御来聴お待ちしております。